



NEW

第1回

さいたま市岩槻人形博物館

今回から新しい連載企画として、埼玉県の名所・旧跡や観光スポット、埼玉発祥の文化などを巡る「ちよい旅 “彩の国”」をスタートします。初回は、「人形の産地」さいたま市岩槻区に今年2月に開館した「岩槻人形博物館」を取り上げます。



写真1：御所人形 裸童〔江戸時代〕

『人形の産地』岩槻から人形文化の魅力を発信

日本有数の『人形の産地』として知られるさいたま市岩槻区に、人形をテーマとした日本初の公立博物館となる「さいたま市岩槻人形博物館」が今年2月に開館しました。

所蔵品の柱は、日本画家で人形玩具研究家として知られる西澤笛^{にしざわてきほ}（1889～1965）が収集したコレクション。個人が収集したものとしては、国内では第一級の質と量を誇ります。江戸後期～昭和初期を中心としたひな人形や人形に関わる浮世絵や古典籍、人形制作道具など5,000点以上を収蔵しています。



写真3：御殿玩具〔江戸時代～明治時代〕



写真2：享保雛〔江戸時代〕

館内には、常設展示室（展示室1・2）のほか、企画展や特別展を開催する企画展示室（展示室3）があります。企画展示室では、開館を記念して館蔵の日本人形のコレクションから選りすぐりの名品を紹介する、開館記念名品展を開催します。

常設展示室は「埼玉の人形作り」と「コレクション展示 日本人形」があります。前者では人形作りの道具や材料の展示、制作風景の映像などから、埼玉に伝承される人形作りの技を学べます。後者では、気品あふれる御所人形に華やかな雛人形、勇ましい武者人形など、館が所蔵する様々なジャンルの日本人形を鑑賞することができます。

また、講座やワークショップを開催できる会議室のほか、カフェ、ミュージアムショップも併設

人形のまち 岩槻

江戸時代「雛祭り」が行事として広まり、人形文化が華開きました。江戸での雛祭りの興隆を受け、鴻巣や越谷など、武州（現在の埼玉県を含む地域）の村々でも人形作りが始まりました。

岩槻は大正時代以降に本格的な産地となり、高度経済成長期には県内最大の製作拠点として日本の人形産業を支えました。現在でも、まちを歩くと人形店や工房の看板が目にとまり、「人形のまち」の風情が感じられます。



写真4：面相描き

※岩槻人形博物館は新型コロナウイルス感染症対策のため3月2日から臨時休館中です。開館状況・企画展情報は、岩槻人形博物館ホームページに随時反映しますので、ご確認のうえ来館ください。

写真提供：さいたま市岩槻人形博物館



にぎわい交流館 いわつき

されています。

同館では、「至極の人形が勢ぞろいした日本のトップクラスの施設で、さいたま・岩槻に根付いた日本の人形文化を是非体感してほしい」と力を込めてPRしています。

にぎわい交流館いわつき

博物館に隣接する産業と観光の拠点「にぎわい交流館いわつき」も同時オープンしました。「岩槻のうれしい、たのしい、おいしい！」をテーマに、伝統的工芸品である岩槻人形、木目込人形などの製作体験講座が行われるクラフトルームや、交流・体験ルーム、地元産ヨーロッパ野菜などを使ったメニューが楽しめるカフェやショップなどがあります。



岩槻人形博物館 IWATSUKI NINGYO MUSEUM

〒339-0057 さいたま市岩槻区本町6丁目1-1
TEL 048-749-0222 <https://ningyo-muse.jp/>

利用案内

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）
休館日：月曜日（休日の場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
観覧料：一般300円、高大生・65歳以上150円、
小中学生100円